

< 報道関係各位 >

チャリティーイベント “アートは世界のこどもを救う”

『第16回 秘蔵の名品 アートコレクション展』  
平山 郁夫 平和への祈り

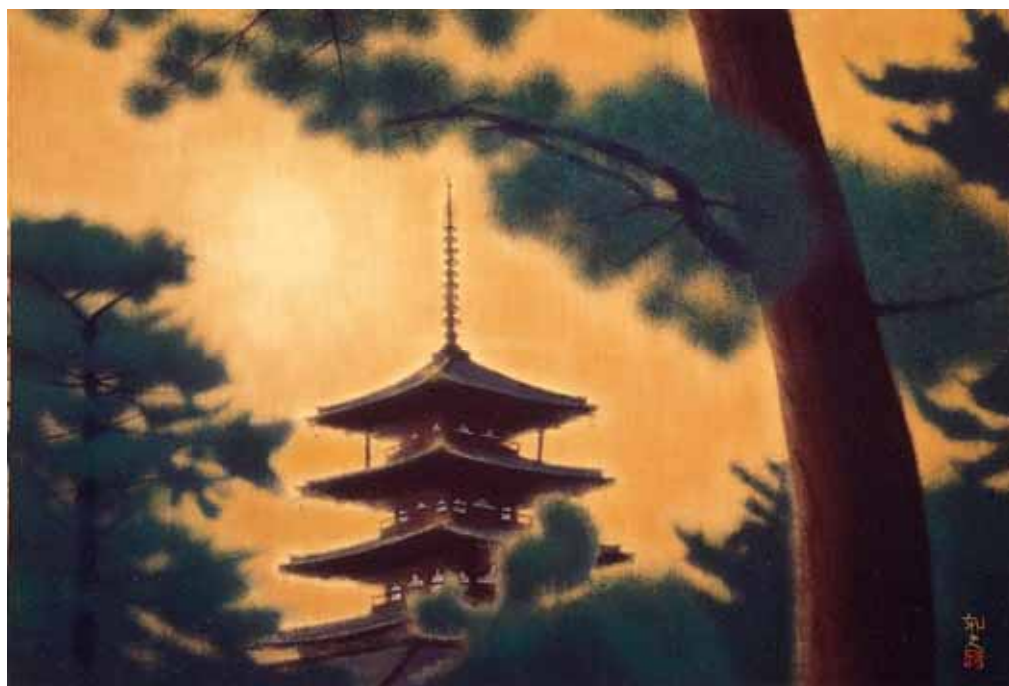
- ・昨年惜しまれつつ他界された平山郁夫先生の追悼展を開催  
初公開を含む60余点を展示
- ・チャリティーイベントとして過去15回で約1億5000万円を寄付

期間:2010年8月4日(水)~29日(日)

会場:ホテルオークラ東京「アスコットホール」(別館地下2階)

企業文化交流委員会  
ホテルオークラ東京

企業文化交流委員会は8月4日(水)~29日(日)の期間、「第16回 秘蔵の名品 アートコレクション展 平山 郁夫 平和への祈り」を開催いたします。ホテルオークラ神戸に展示されている《かつぜんかいりう 豁然開朗(津田の松林)》を通してホテルオークラとも親交があり、世界平和・東西文化の交流を願い、惜しまれつつ昨年他界された平山郁夫先生の足跡をたどる本展覧会は、平山先生の業績を偲ぶ追悼展として関東圏では初の開催となり、大作を含め60余点が一堂に会します。今回は初公開作品を含め、企業・団体などが所蔵し、普段一般には公開されていない作品も出品予定です。



《法隆寺》

1991年 吉野石膏株式会社

## チャリティーイベント “アートは世界のこどもを救う” 『秘蔵の名品 アートコレクション展』

ホテルオークラ東京の創業者大倉喜七郎は「ホテルは人々が集い、文化・芸術が交流する場である」という強い理念を抱いていました。喜七郎の父・喜八郎も文化を大切にし、文化財保護などの目的で蒐集した膨大な美術品を日本初の私設美術館として開設した大倉集古館で一般公開いたしました。その思いを継承して1994年より始めた「アートコレクション展」は今回で16回目を迎えます。ホテルオークラ東京のメセナ活動の一環として、「ホテルの持つ社会性・公共性に着目し、社会に還元する文化活動」という発想のもと、企業・団体・個人が所有し日頃は目にすることの出来ない貴重な美術品を一堂に集めて公開する展覧会を考案いたしました。

この展覧会は、社会貢献活動に造詣が深い有志企業・団体による「企業文化交流委員会」が核となって開催しています。ホテルオークラ東京の単独企画ではなく様々な企業・団体・個人のご参加をいただくことで、より高いレベルの文化支援活動として具現化されました。また、第1回から「アートは世界のこどもを救う」と銘打ったチャリティーイベントとして企画され、過去15回の総寄付金額は約1億5千万円に達し、延べ約38万人のお客様にご来場いただいております。開催を通じて美術文化の振興に寄与するとともに、恵まれない子どもたちのための救済の一助となるべく、今年も純益の全てを、企業文化交流委員会を通じて日本赤十字社およびNHK 厚生文化事業団に寄付いたします。

### 開催に寄せて

毎夏の恒例となりましたチャリティーを主旨とした展覧会は、本年で16回目を迎えます。今回は、昨年12月に79歳で逝去されました平山郁夫先生の多大な功績を偲び「平山郁夫 平和への祈り」を開催いたします。

若き日の広島での被爆体験により、その後、後遺症に悩みながら強く世界平和を希求する平山先生は、日本文化の源流を求めて、仏教伝来・仏教東漸の道、東西文化交流の中核であったシルクロード（絹の道）を訪れ、100回を超える前人未到の旅を重ね、人類の悠久な歴史を刻む旺盛な制作活動を展開されました。

また世界文化遺産の保護のため「世界文化財赤十字構想」を提唱し、積極的に取り組んで美術界に多大な成果をもたらされました。

東京美術学校（現東京藝術大学）最後の卒業生として前田青邨に薫陶を受け、壮大なスケールにより戦後の日本美術院（院展）を牽引された平山先生の初公開を含む大作・代表作60余点を、是非この機会にご鑑賞ください。

（本展覧会監修 金原宏行）

## 『第16回 秘蔵の名品 アートコレクション展』 開催概要

- 【名称】** チャリティイベント “アートは世界のこどもを救う”  
「第16回 秘蔵の名品 アートコレクション展」  
平山 郁夫 平和への祈り
- 【開催期間】** 2010年8月4日(水)～29日(日) 26日間 会期中無休
- 【開催時間】** 10:00～18:00(金曜日 10:00～20:00) 最終入場は閉館の30分前まで  
ただし開催初日8月4日は12:00～20:00、最終日8月29日は17:00まで
- 【会場】** ホテルオークラ東京「アスコットホール」(別館地下2階)
- 【主催】** 企業文化交流委員会  
委員長 松井 幹雄 (株式会社ホテルオークラ 特別相談役)  
委員 山崎 富治 (山種美術館 名誉館長)  
委員 森田 富治郎 (第一生命保険株式会社 代表取締役会長)  
委員 齋藤 宏 (みずほコーポレート銀行 特別顧問)  
委員 大崎 磐夫 (財団法人 大倉文化財団 理事長)  
委員 大倉 喜彦 (大倉集古館 館長) (敬称略)
- 【協賛】** (株)ホテルオークラ東京 / ホテルオークラ共栄会
- 【後援】** (社)日本経済団体連合会 / NHK / 日本経済新聞社 / (社)企業メセナ協議会 / 港区教育委員会
- 【協力】** 日本赤十字社 / NHK厚生文化事業団 / (財)山種美術財団 /  
(財)大倉文化財団・大倉集古館 /  
(財)平山郁夫シルクロード美術館 / (財)平山郁夫美術館 / (株)山元
- 【事務局】** 監修 常葉学園大学教授、常葉美術館館長 金原 宏行  
東京純心女子大学教授、府中市美術館館長 井出 洋一郎  
平塚市美術館館長 草薙 奈津子  
(敬称略)
- 【入場料】** 当日)一般 1,200円、大学・高校生 1,000円、小・中学生 無料  
前売)一般 1,000円、大学・高校生 900円、小・中学生 無料  
ランチセット券) 3,800円、6,000円、8,000円
- 【前売券販売】** 販売期間: 2010年5月12日(水)～8月3日(火)  
ホテルオークラ東京  
(本館・別館フロント、本館ゲストリレーションズデスク、別館ギフトサロン  
各レストラン・バー)  
大倉集古館  
チケットぴあ(入場券Pコード: 986 - 861、  
ランチセット券Pコード: 986 - 862)  
TEL 0570 - 02 - 9999  
ローソンチケット(Lコード: 36450) TEL 0570 - 084 - 003  
JTB 各支店、JTB トラベランド、JTB 総合提携店

## 《 出展作品紹介》



《豁然開朗(津田の松林)》

1988年 ホテルオークラ神戸

この大作はホテルオークラ神戸のロビーに掲げられており神戸市民には親しいものですが、平山先生が急逝したため追悼の意味を込めて、神戸から東京のこの会場まで運ばれることになりました。阪神淡路大震災の時には、平山先生自らがこの《豁然開朗(津田の松林)》が無事であるか、損傷はなかったかと心配されていた作品で、東京では1988年の日本美術院展で発表されて以来22年ぶりの披露となります。シルクロードの終着駅として日本の名勝地・津田の松林の正確で澄明な把握は見事です。今回は本作品の「大下図」(平山郁夫美術館)が出品されるのも興味を引きます。この下図は緻密に描かれており、綿密な計画の上に本画《豁然開朗(津田の松林)》が完成したことが理解できます。平山先生の制作過程を伺い知ることもできる見どころの多い展示となるでしょう。



《天堂苑樹》

1966年 佐川美術館

1957年(昭和32年)の《仏教伝来》(日本美術院出展作品)に始まる仏伝シリーズの最後を飾った作品です。釈迦(ブツダ)が誕生したお祝いの場面を荘厳な雰囲気の中に描き出し、その下で釈迦が悟りを開いたという緑青の菩提樹は、生命力をも象徴しています。胡粉の白像と金泥による長老たちの伝統的な顔料を駆使した細やかな筆致が見るものに迫ってきます。平山独自のイメージが新しい仏画を現代に甦らせたといえましょう。

(本展覧会監修 金原宏行)



### 《バーミアンの大石仏》

1968年 箱根・芦ノ湖 成川美術館

昭和43(1968)年、平山はインドから初のシルクロード写生旅行に出ました。アフガニスタン、カブールから車で8時間、3日間の行程でバーミヤン渓谷の仏教遺跡を訪ねましたが、その最大の成果が本作品。6世紀の作とされる2体ある巨大な磨崖仏のうち高さ55mの西の大仏ですが、偶像破壊の故にいつしか顔を削り取られていました。この作品には、のち43年を経て新たに爆弾で破壊され尽くした事件の影が、すでに色濃く覆っているかのようです。平山はこの大仏の安易な復元には反対しました。広島原爆ドームの保存と同じく、戦争による人類の痛み、「負の遺産」として、永遠に記憶に留めるべきと考えたからです。

(本展覧会監修 井出 洋一郎)

## 《 出品予定リスト 》

	作品	制作年	材質・技法	サイズ(cm、h×w)
1	欧州絵巻	1962-63	スケッチ	1,000、巻物
2	天堂苑樹	1966	紙本彩色、四曲一隻屏風	169.0×366.4
3	バーミアンの大石仏	1968	紙本彩色	90.2×60.5
4	塵耀のトルキスタン遺跡	1970	大下図、紙本彩色、 四曲一隻屏風	168.0×366.0
5	中垂熱鬧図	1971	大下図、紙本彩色 、 四曲一隻屏風	168.5×366.0
6	永平寺の森	1972	紙本彩色	80.0×130.0
7	ペルセポリスの遺跡	1974	紙本彩色	96.5×130.0
8	ペルセポリス炎上	1976	紙本彩色	91.0×116.5
9	招提寺盧遮那仏	1976	紙本彩色	130.5×96.8
10	鄯善国妃子(楼蘭の王女)	1976	紙本彩色	91.5×116.5
11	チベット・ポタラ宮の石段	1977	紙本彩色	100.0×72.7
12	ポタラ宮 正面	1977	水彩	47.0×62.0
13	ポタラ宮 裏門	1977	水彩	55.0×47.0
14	ラマ教の寺 A	1978	紙本彩色	90.9×72.7
15	西域の馬	1978	紙本彩色	72.7×100.0
16	岷江	1978	紙本彩色	89.4×130.3
17	法然偏依善導	1979	紙本彩色、六曲一隻屏風	171.0×364.0
18	パルミラの月	1980	紙本彩色	72.7×53.2
19	黄河上流	1980	紙本彩色	95.0×115.0
20	インダス川上流 久遠の流れ	1982	紙本彩色	65.1×90.7
21	平等院	1984	紙本彩色	90.9×116.7
22	瀬戸田曼荼羅	1985	紙本彩色	34.2×60.2
23	輝く太陽と富士山	1986	紙本彩色	65.2×90.9
24	興福寺の月	1986	紙本彩色	140.0 ×100.0
25	楼蘭の遺跡	1987	紙本彩色	80.3 ×116.7
26	高野山奥之院	1988	紙本彩色	115.0×79.0
27	竹	1988	紙本彩色	51.7×72.5
28	朝日桜	1988	紙本彩色	26.5×136.0
29	豁然開朗 (津田の松林)	1988	大下図、四曲一隻屏風	171.0×728.0
30	豁然開朗 (津田の松林)	1988	紙本彩色、四曲一双屏風	182.0×728.0
31	朝陽鳳凰堂(宇治平等院)	1989	紙本彩色、四曲一隻屏風	182.5×364.0
32	瀬戸内海曼荼羅	1989	紙本彩色	25.0×54.0

33	皓月ブルーモスク(イスタンブール)	1989	紙本彩色、四曲一隻屏風	182.5×364.0
34	月明タジマホール	1990	紙本彩色	90.8×116.5
35	桜蘭遺跡に行く	1990	紙本彩色	80.3×116.7
36	南海夕陽 海のシルクロード	1990	紙本彩色	80.3×116.7
37	法隆寺	1991	紙本彩色	80.3×117.0
38	月華巖島	1993	紙本彩色、四曲一隻屏風	171.2×363.6
39	燦・瀬戸内(輝く瀬戸内海)	1995	紙本彩色	43.0×100.0
40	暁流沙らくだ行	1996	紙本彩色	65.2×90.1
41	大徳寺境内	1997	紙本彩色	90.9×65.2
42	祈り(エローラ石窟)	1998	紙本彩色	116.7×80.3
43	月光流砂らくだ行	2001	紙本彩色	80.3×116.7
44	大内山迎春	2001	紙本彩色	26.4×52.0(扇面)
45	上賀茂の春	2003	紙本彩色	116.7×80.3
46	破壊されたバーミヤン大石仏	2003	紙本彩色	100.0×72.7
47	祇園祭	2004	紙本彩色	80.3×116.7
48	秋天東寺五重塔	2004	紙本彩色	116.7×80.3
49	シルクロードを行くキャラバン(東・太陽)	2005	紙本彩色、四曲一隻屏風	171.0×364.0
50	鞍馬の火祭り	2005	紙本彩色	65.2×91.0
51	アンコールワットの遺跡	制作年 不詳	水彩、紙	43.0×58.0
52	バーミヤンの大仏	制作年 不詳	紙本彩色	60.0×44.0

\* その他約 10 点、合計 60 余点出品予定

## 「秘蔵の名品 アートコレクション展」の歩み

### 1994年 第1回展「企業の名品 アートコレクション展」

- < テーマ > 企業所蔵の名品
- < 来場者数 > 34,860人(17日間開催)
- < 寄付金額 > 22,047,588円(寄付先:ユニセフ)

### 1996年 第2回展「企業の名品 アートコレクション展」

- < テーマ > 企業所蔵の名品
- < 来場者数 > 34,474人(19日間開催)
- < 寄付金額 > 20,279,364円(寄付先:日本赤十字社)

### 1997年 第3回展「秘蔵の名品 アートコレクション特別展」

- < テーマ > 日本画の巨匠、杉山寧・東山魁夷・高山辰雄・加山又造・平山郁夫の作品を集めて
- < 来場者数 > 42,458人(18日間開催)
- < 寄付金額 > 21,446,857円(寄付先:日本赤十字社)

### 1998年 第4回展「企業の名品 アートコレクション展」

- < テーマ > 印象派の起源からエコール・ド・パリまで
- < 来場者数 > 25,770人(18日間開催)
- < 寄付金額 > 10,895,400円(寄付先:日本赤十字社)

### 1999年 第5回展「秘蔵の名品 アートコレクション展」

- < テーマ > 百花繚乱の新しき“日本の美”
- < 来場者数 > 16,694人(18日間開催)
- < 寄付金額 > 5,678,566円(寄付先:日本赤十字社)

### 2000年 第6回展「秘蔵の名品 アートコレクション展」

- < テーマ > 日蘭交流400周年記念イベント  
オランダ絵画の伝統と革新。17世紀の巨匠から現代の俊英まで
- < 来場者数 > 14,898人(23日間開催)
- < 寄付金額 > 6,300,000円(寄付先:日本赤十字社、NHK厚生文化事業団)

### 2001年 第7回展「秘蔵の名品 アートコレクション展」

- < テーマ > 開催後70年「甦る大ローマ展」～昭和の結晶・珠玉の日本画60～
- < 来場者数 > 32,686人(23日間開催)
- < 寄付金額 > 8,641,490円(寄付先:日本赤十字社、NHK厚生文化事業団)

### 2002年 第8回展「秘蔵の名品 アートコレクション展」

- < テーマ > 現代に輝く昭和の油絵 巨星5人の傑作65
- < 来場者数 > 21,327人(23日間開催)
- < 寄付金額 > 8,042,296円(寄付先:日本赤十字社、NHK厚生文化事業団)

### 2003年 第9回展「秘蔵の名品 アートコレクション展」

- < テーマ > 不滅の輝き 甦る幻の松方コレクション
- < 来場者数 > 22,928人(27日間開催)
- < 寄付金額 > 8,769,879円(寄付先:日本赤十字社、NHK厚生文化事業団)

**2004年 10周年記念展「秘蔵の名品 アートコレクション展」**

<テ - マ> 近代絵画を築いた日本・欧州 10 大巨匠展  
<来場者数> 24,729 人 (28 日間開催)  
<寄付金額> 6,593,998 円 (寄付先：日本赤十字社、NHK 厚生文化事業団)

**2005年 第11回展「秘蔵の名品 アートコレクション展」**

<テ - マ> ヨーロッパと日本 きらめく女性たち その魅力に出会う  
<来場者数> 22,284 人 (20 日間開催)  
<寄付金額> 9,415,813 円 (寄付先：日本赤十字社、NHK 厚生文化事業団)

**2006年 第12回展「秘蔵の名品 アートコレクション展」**

<テ - マ> 花鳥風月 [日本とヨーロッパ] ~その魅力を探る~  
<来場者数> 22,307 人 (22 日間開催)  
<寄付金額> 6,740,273 円 (寄付先：日本赤十字社、NHK 厚生文化事業団)

**2007年 第13回展「秘蔵の名品 アートコレクション展」**

<テ - マ> 秘蔵の名品  
<来場者数> 22,928 人 (24 日間開催)  
<寄付金額> 6,149,289 円 (寄付先：日本赤十字社、NHK 厚生文化事業団)

**2008年 第14回展「秘蔵の名品 アートコレクション展」**

<テ - マ> パリのエスプリ・京の雅・江戸の粋  
<来場者数> 22,030 人 (23 日間開催)  
<寄付金額> 5,000,000 円 (寄付先：日本赤十字社、NHK 厚生文化事業団)

**2009年 第15回展「秘蔵の名品 アートコレクション展」**

<テ - マ> レンブラント、ゴッホ、そして現在。栄光のオランダ絵画展  
<来場者数> 23,324 人 (27 日間開催)  
<寄付金額> 3,500,000 円 (寄付先：日本赤十字社、NHK 厚生文化事業団)

**【過去 15 回合計】**

総来場者数 : 384,803 人  
総寄付金額 : 149,500,813 円

報道関係の方からのお問い合わせ先

ホテルオークラ東京 営業企画部広報課 天野・中澤

〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-10-4

TEL : 03 - 3224 - 6731 (直通)

一般の方からのお問い合わせ先

ホテルオークラ東京

TEL : 03 - 3582 - 0111 (代表)

ホテルオークラ東京 ホームページ

<http://www.hotelokura.co.jp/tokyo/>

本プレスリリースは上記 URL からご覧いただけます。